

細澤香織

9月に入っていよいよ本格的にイギリスと日本、離れてフランシスさんとのコンビネーションで仕事を進めて行かなくてはならない事を強く意識するようになった。この距離のままで作品を仕上げていかなくてはならないのだ。メールで近況やアイデアを少しずつ伝えながら帰国まぎわに決めたテーマや方向性に沿って進めて行く。「上手く行くのだろうか?」「フランシスさんに迷惑をかけてないだろうか?」「私の進み具合がいつも遅すぎるのではないだろうか?」などなど不安は耐えない。

9月7日、8日

フランシスさんにバイディングのサンプルを紙で制作したイメージを送る。返事がやってきて彼女も気に入ってくれたので仕上げの具体的なイメージが決まった。しかしまだ細かい部分は残っている。フランシスさんに漆の絵の具と日本の和綴じの本を送る。

9月12日

帰って来るとフランシスさんからファックスと留守電が。そしてすぐに電話が鳴ったので取るとフランシスさんからの電話であった。久しぶりに声を聞く気がしてとてもとても嬉しかった。早くも懐かしい気持ちでいっぱい、という感じである。ファックスで送られたドローイングとイメージから作品のディテールを確認する。

9月14日~23日

二週連続して祝日があり、作品を作る時間を少しまとめて確保することが出来た。

フランシスさんより銅メッキされた小さなサンプルが送られてきた。ジョイント部分のサンプルである。一つは不織布の繊維を使ったもの、もう一つは銅メッキの糸を使ったものだ。どちらもとても面白い。銅メッキを使った方がまとまっている感じなのでそちらを採択する。ジョイント部分は決定したが一番端となる部分はまだ決定では無い。

カーボンのファブリックにニットの生地を合わせた物を制作する。仕上がりはポストカードサイズとなるがやや大きめに制作してフランシスさんに送り、メッキ

をしてもらう。それ以外にも懸案となっている作品の端の部分の仕上げのアイデアをサンプルにして送ることにした。

私たちの作品は小さいサイズのものとなるがそれでもなかなか一つ作り上げるのは大変である。帰国してからはコミュニケーションにしてもサンプルのやり取りにしてもその一つ一つがイギリスに居た時よりも重要になっている様に思う。それは作業がより具体的に進んでいるからなのか距離感や共有する時間の違いからなのかは分からない。ただ、プロセスにしろ、結果（作品）にしろ、お互いにとって良い結果となる事を期待したい。